

平成24年1月20日  
独立行政法人 日本学術振興会

## 第8回 日本学術振興会賞の受賞者決定(24名の若手研究者が受賞)

独立行政法人日本学術振興会（理事長：安西祐一郎）は、本会に設置されている日本学術振興会賞審査会（委員長：江崎玲於奈 茨城県科学技術振興財団理事長）の選考に基づき、日本の学術研究の将来のリーダーと期待される日本学術振興会賞受賞者24名を決定しましたので、お知らせいたします。

### 1 日本学術振興会賞について

本賞は、将来の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッシュな研究者をいち早く顕彰することにより、今後の研究にチャンスを与えブレークスルーを促そうとするものです。

選考は、世界トップレベルの研究者である江崎玲於奈先生、野依良治先生などにより構成される審査会で厳正な審査が行われ、受賞者が決定されました。

### 2 受賞者について

今回は、人文・社会科学及び自然科学にわたるあらゆる分野を対象としている本賞ならではの研究者24名に授与されます。

人文・社会科学系では、日本古代史の研究において貴重な資料である木簡を詳細に分析することで、都城を中心とする日本古代の交通制度の実態を解明した研究者等が選考されました。

自然科学系では、マウスにおいて肌や毛の色のもととなる色素幹細胞の同定や、幹細胞が維持される分子機構を明らかにし、白髪・脱毛などの老化現象の理解などに貢献した研究者等が選考されました。

なお、日本学士院において、これら24名の日本学術振興会賞受賞者の中から、日本学士院学術奨励賞の受賞者が選ばれることとされています。

### 3 授賞式について

平成24年2月27日(月)に日本学士院(東京都台東区上野公園7-32)において、日本学術振興会賞および日本学士院学術奨励賞の授賞式が同時に行われる予定です。

(お問い合わせ)

独立行政法人日本学術振興会総務部研究者養成課

課長 大城 功、課長代理 佐々木 康晴

電話： 03-3263-4934、1736 (直通)

## 第8回（平成23年度）日本学術振興会賞受賞者一覧

氏名 (性別)(年齢)	所属機関 部局名 職名	授賞の対象となった研究業績
アオヤマ ワカ 青山 和佳 (女)(42)	北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授	フィリピンにおける貧困の民族誌的研究ーダバオ市のサマ・バジャウの社会経済生活
イチ ヒロキ 市 大樹 (男)(39)	大阪大学 大学院文学研究科 准教授	日本古代の木簡と交通制度
クワキノ コウジ 桑木野 幸司 (男)(36)	大阪大学 大学院文学研究科 准教授	近代イタリアの記憶術と建築空間における視覚的表象の問題
ヒラタ サトシ 平田 聡 (男)(37)	京都大学 霊長類研究所 特定准教授	ヒトとチンパンジーの比較認知研究による社会的知性の進化的起源の解明
ミヤケ キヨシ 宮宅 潔 (男)(41)	京都大学 人文科学研究所 准教授	中国古代刑罰制度史
モリグチ チアキ 森口 千晶 (女)(44)	一橋大学 経済研究所 教授	日米における制度発展の比較経済史
オノ テルオ 小野 輝男 (男)(43)	京都大学 化学研究所 教授	ナノ磁性体を用いたスピndeバイスの基礎と応用展開
カツミ タケシ 勝見 武 (男)(44)	京都大学 大学院地球環境学 教授	性能評価に基づいた地盤環境保全修復技術に関する研究
クマガイ タカシ 熊谷 隆 (男)(44)	京都大学 数理解析研究所 教授	複雑な系の上の解析学と確率過程論の展開
シノクボ ヒロシ 忍久保 洋 (男)(41)	名古屋大学 大学院工学研究科 教授	ポルフィリン系機能性分子の革新的な合成手法の開発
スエナガ カストモ 末永 和知 (男)(44)	産業技術総合研究所 ナノチューブ応用研究センター 上席研究員	電子顕微鏡による単分子・単原子の観察および分析
タカイ ケン 高井 研 (男)(41)	海洋研究開発機構 海洋・極限環境生物圏領域 プログラムディレクター	極限環境微生物の探索と生態系駆動原理の解明、および地球生命初期進化研究への展開
タナカ タカヒロ 田中 貴浩 (男)(43)	京都大学 基礎物理学研究所 教授	ブレーン重力の研究
ツモト コウヘイ 津本 浩平 (男)(43)	東京大学 医科学研究所 教授	基礎科学から産業展開を目指す蛋白質相互作用の精密解析
ナカノ タカヨシ 中野 貴由 (男)(43)	大阪大学 大学院工学研究科 教授	材料工学的視点からの骨微細構造ならびに骨代替材料への複合領域型研究
ニシバヤシ ヨシアキ 西林 仁昭 (男)(43)	東京大学 大学院工学系研究科 准教授	錯体化学を用いた新しい窒素固定法の開発
マツウラ カズノリ 松浦 和則 (男)(42)	九州大学 大学院工学研究院 准教授	DNAやペプチドの自己集合特性を活用したナノ構造体の構築
イエダ マサキ 家田 真樹 (男)(40)	慶應義塾大学 医学部 特任講師	心臓発達制御機構の解明と直接リプログラミングによる新しい心筋再生法の開発
イナバ ケンジ 稲葉 謙次 (男)(41)	九州大学 生体防御医学研究所 准教授	タンパク質の品質管理に関わるジスルフィド結合形成・開裂システムの解明
ウラノ ヤステル 浦野 泰照 (男)(43)	東京大学 大学院医学系研究科 教授	がん診断に資する論理的精密設計に基づく蛍光プローブの開発
キノシタ ケンゴ 木下 賢吾 (男)(40)	東北大学 大学院情報科学研究科 教授	情報科学的アプローチによる機能未知遺伝子の機能予測法の開発
タカヤ ナオキ 高谷 直樹 (男)(42)	筑波大学 生命環境系 教授	糸状菌の多様な電子伝達反応系の発見と機構解明
トマリ ユキヒデ 泊 幸秀 (男)(35)	東京大学 分子細胞生物学研究所 准教授	小分子RNAがはたらく分子基盤の解明とその応用
ニシムラ エミ 西村 栄美 (女)(42)	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 教授	色素幹細胞の同定、および維持制御と毛髪老化のメカニズムの解明

※所属機関・職名は平成24年1月1日現在、年齢は平成23年4月1日現在

# 日本学術振興会賞の概要

－優れた若手研究者の顕彰・支援－

## 1. 事業の趣旨

我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援していく必要がある。この趣旨から日本学術振興会は、平成16年度に日本学術振興会賞を設けた。

## 2. 対象分野

人文・社会科学及び自然科学の全分野とする。

## 3. 推薦条件

国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち、平成23年4月1日現在以下の条件を満たす者とする。

- 1) 45歳未満であること
- 2) 博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む。）
- 3) 外国人の場合は推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定していること（なお、日本国籍を有する者の場合はこの条件を問わない。）

## 4. 推薦権者

- 1) 我が国の大学等研究機関の長（機関長推薦）
- 2) 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者（個人推薦）

## 5. 選考方法

日本学術振興会に設置する審査会において選考する。

なお、審査会は選考するに当たって、学術システム研究センターに意見を求めることができる。

## 6. 授賞等

授賞数は毎年度25件程度とし、受賞者には、副賞として研究奨励金110万円を贈呈する。

日本学術振興会賞受賞者の中から特に優れた者に、日本学士院学術奨励賞が授与される。

また、授賞式は日本学士院を会場として行う。

7. 平成23年度（第8回）推薦状況

平成23年度(第8回)			前回からの候補者※1	合計※2
機関推薦	個人推薦	計		
205人(227人)	23人(17人)	226人(241人)	122人(132人)	348人(373人)

※1 本賞の推薦書は2年間有効であり、前回の被推薦者から受賞者及び当該年度の4月1日時点で45歳を超える者を除いた者を審査対象者とする。

※2 重複推薦は1名で計上。

※3 ( )内は、前回の人数

8. 第8回（平成23年度）日本学術振興会賞日程

推薦依頼	平成23年3月24日
推薦書受付	平成23年5月18日～20日
予備審査 (学術システム研究センター)	平成23年6月上旬～11月上旬
審査会	11月25日
授賞式	平成24年2月27日

9. 日本学術振興会賞賞牌

このメダルは、形態の基本となる円、三角形、正方形を重ね合わせ「創造」を表現し、その中心に日本学術振興会のマークである長鳴き鳥を配することで、世界トップレベルの研究を発信するという趣旨のデザインをしました。

(デザイン:東京芸術大学教授 飯野 一朗)



# 日本学術振興会賞審査会委員名簿

氏名（所属機関・職）

委員長

江崎 玲於奈(茨城県科学技術振興財団理事長/横浜薬科大学学長)

金澤 一郎(国際医療福祉大学大学院院長)

郷 通子(名古屋大学名誉教授)

佐藤 彰一(名古屋大学大学院文学研究科特任教授)

鈴木 昭憲(東京大学名誉教授)

外村 彰(日立製作所フェロー)

中西 重忠(大阪バイオサイエンス研究所所長)

野依 良治(理化学研究所理事長)

羽入 佐和子(お茶の水女子大学学長)

増本 健(電磁材料研究所理事長)

森 重文(京都大学数理解析研究所所長)

森棟 公夫(椙山女学園大学現代マネジメント学部教授)

(敬称略)

平成23年 11 月 1 日現在

## 西林 仁昭(ニシバヤシ ヨシアキ)

(NISHIBAYASHI Yoshiaki)



生 年 1968年 出 身 地 大阪府

現 職 東京大学大学院工学系研究科 准教授  
(Associate Professor, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo)

専 門 分 野 有機金属化学、錯体化学、有機合成化学

略 歴 1991年 京都大学工学部卒  
1993年 京都大学大学院工学研究科修士課程修了  
1994年 日本学術振興会特別研究員-DC  
1995年 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了(在学期間短縮)  
1995年 博士(工学)の学位取得(京都大学)  
1995年 東京大学大学院工学系研究科助手  
2000年 京都大学大学院工学研究科助手  
2005年 東京大学大学院工学系研究科助教授  
2007年 東京大学大学院工学系研究科准教授(現在に至る)

### 授 賞 理 由

#### 「錯体化学を用いた新しい窒素固定法の開発」

(Development of New System for Nitrogen Fixation Using Transition Metal Complexes)

20世紀初頭に開発された鉄触媒を利用して窒素と水素からアンモニアを合成するハーバー・ボッシュ法は約一世紀を経た現在でもアンモニアの製造法として利用されているが、高温・高圧の反応条件が必要であり、新たな触媒技術の開発が切望されてきた。

西林仁昭氏は、常温・常圧下での窒素固定という難易度の高い命題に果敢に挑戦し、モリブデン錯体を用いて窒素から触媒的にアンモニアを得ることに成功している。この触媒系を用い、従来では達成できなかった温和な条件下での高効率の窒素固定を可能にした。

同氏は、独創的な着想をもとに、専門とする基礎的な金属錯体の研究を精力的に推し進め、上記の如く社会的に重要な命題にひとつの解決の道を切り開いた。この成果は、西林氏の研究者としての並外れた力量により達成されたものであり、この分野を先導する研究者として、今後の活躍が期待される。